

## V14b 可視光突発天体常時観測システムの構築

輿石 知宏 (青学大)、吉田 篤正 (青学大、理研)、山岡 和貴 (青学大)、中川 友進 (青学大)、田中 薫 (青学大)、小林 明菜 (青学大)、高橋 一郎 (青学大)、吉田 光太郎 (青学大)

1999年1月23日に発生したガンマ線バースト (GRB990123) において、バーストの50秒後に約9等級の可視光閃光現象 (optical flash) が報告されている。しかし、このような可視光閃光現象は急速に減光するため、観測が非常に困難である。

そこで我々は、2004年11月に打ち上げられたSWIFT/BATの視野を常時観測するための広視野モニターを検討している。なるべく安価にシステムを構成するため、民生用のデジタル一眼レフカメラ及び、アマチュア用赤道儀を使用した観測装置の開発を行っている。APS-Cサイズの撮像素子を持つデジタル一眼レフカメラ2台と、焦点距離20mmの安価なレンズを使用する。これを組み合わせることによりSWIFT/BATの視野の約80%を監視することが出来る。

本年会では、本装置のシステム全体の設計、試験観測の結果、その評価について報告する。